

今回は、DX(Digital Transformation : デジタルトランスフォーメーション)についてお伝えします。

DXとは

- ◆デジタル技術によって、ビジネスや社会、生活の形・スタイルを変えることですが、単なるデジタル化ではなく、時代の変化に合わせてIT技術を選定・活用し、競争力を持った新たな製品やビジネスモデルを創出することを意味します。
- ◆経済産業省はDXを次のように定義しています。

デジタル化 → 効率化 → 共通化 → 組織化 → 最適化

企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。

DXとIT化の違い

- ◆違いは「変革を伴うかどうか」です。IT化とは、既存の業務にデジタル技術を導入し効率化したり付加価値をつけたりすることです。DXは、単純にデジタル技術を導入するだけではなくビジネスモデルや企業の変革を伴います。IT化は、DXの手段のひとつです。

DXを導入するメリット

- ◆生産性が向上する
DXを導入すると、デジタル技術による単純作業の自動化や、クラウドサービスの利用で業務にかかる工数を削減可能です。
- ◆コストを削減できる
DXの導入は、コストの削減にも繋がります。DXで削減できるコストには、人件費やオフィスの費用などがあります。
- ◆利益の向上に繋がる
生産性が向上して雑用に使っていた時間をコア業務にあてられるようになれば、売り上げの増加が期待できます。
- ◆顧客満足度の向上に繋がる
デジタル技術を活用すれば、顧客との接点を増やし、それぞれのユーザーに対して最適な提案ができます。
- ◆新しいビジネス創出の可能性がある
今までできなかったことやコスト面でビジネスにするのは難しかった問題を、DXによって解決できれば、新規のビジネスが生まれます。

DXへの取組み

- ◆DXへの取組みは、これまで大手企業を中心に進められてきましたが、最近は「中小企業こそDXが必要」とも言われています。行政でも、中小企業がDX推進に活用できる助成金や補助金を用意し、取組みを後押ししています。企業のDX推進が求められている理由は、次のような中小企業の課題解決策としてDXが活かせることにあります。
 - 業務プロセスの改善、効率化の促進に
DXに取り組むと、業務のデジタル化は必然となります。属人化した業務を自動化・標準化できたり、業務の非効率を見直すきっかけになったりと、自然と従来の業務プロセスにメスを入れることができます。
 - 人材不足問題の解決策に
多くの企業が人材不足・人材確保に頭を抱えていると思いますが、DXが進むと定型業務は自動化され業務の省力化が実現します。また、業務環境がクラウドに構築されるため、テレワークなどが実現しやすくなり多様な働き方にも対応できるようになります。優秀な従業員の維持・定着にもつながり、「働きやすさ」は企業の新たな魅力にも繋がります。
 - BCP対策の体制強化に
ここ数年、水害や地震など自然災害が多く、非常事態に対する備えはどの企業にとっても重要な課題となっていますが、BCP対策には膨大なコストが発生する可能性があります。DXを推進する中で、セキュリティの万全なクラウドを利用すれば、クラウド上に機密情報や顧客情報などの企業情報を保管することができ、自然と緊急時の事業継続体制をとりやすくなります。
 - 既存システムの老朽化に備える
老朽化したシステムや複雑化したシステム、この人でなければできないといった業務は、企業の成長を妨げる原因になります。DX化を推進していくことで、このような問題も解決していくことができると思います。

弊社では今、何がデータ化されていて、何がデータになっていないか(紙のまま)を把握することが、「業務のデジタル化」の第1歩と考え、その上で、データ化して共有化し、データ化して便利にしていくことを目的にDX化に取り組んで参ります。